

瀬戸内市の寒風古窯跡群で、同市立邑久小3年の児童が珍しい土器片（土器のかげら）を見つけました。記事を読み質問に答えましょう。

亀形の円面硯見つけたよ



寒風古窯跡群で発見した土器片を持つ三浦君。亀の頭のような形をしている

邑久小3年の三浦君（8）が、備前焼のルーツとされる須恵器の一大産地跡・寒風古窯跡群（瀬戸内市牛窓町長浜）で、亀の頭の形をした土器片を見つけた。古代のすり「円面硯」の一部とみられる。亀の形をした円面硯が寒風古窯跡群で見つかったのは初めてで、ガイダンス施設「寒風陶芸会館」（同所）で当面の間展示する。（岡亮佑）

邑久小3年の三浦君

三浦君は近くに窯を持つ備前焼作家の父裕二さんの公益財団法人「寒風陶芸（42）」と古窯跡群を散歩していた2月11日、動物さん（64）に確認してもらったところ、円面硯の持つ土器片（長さ6センチ、幅高さ各1・5センチ）に目が留まった。不思議に思い、器片は中空円面硯になって古墳や貝塚の発掘に携わっている中空円面硯の一部だった元市教委社会教で、7世紀後半から8世紀ごろの出土物。持ち運ぶために持ち手の一部に穴をあけ、ひもを通して使われていた可能性が高いという。寒風古窯跡群ではこれまでにも鳥の頭、寒風古窯跡群を管理する市文化観光課は「形をした円面硯が見つかったというが、亀形は全品などを捨てた『灰原』国でも数点しか出土してない」という。陶芸会館では、裕二さんが土器片を元に再現した中空円面硯と並べて展示。三浦君は「珍しいと聞いてびっくりした。家

散歩中 寒風古窯跡群で初



三浦君が見つけた土器片（右）と父裕二さんが再現した中空円面硯

8月24日付山陽新聞、東備版

Q1

邑久小3年の三浦君が見つけた土器片は、どんな

形をしていましたか。第1段落、見出しを読み答え

ましょう。

Q2

三浦君が見つけた土器片は、どんな道具の一部と

みられていますか。

Q3

三浦君が土器片を見つけた寒風古窯

跡群は須恵器の一大産地跡です。須恵

器は古墳時代に朝鮮半島から伝えられた硬い土器

で、ある焼き物のルーツとされています。その焼

き物は何でしょうか。

過去の問題は
こちらから▶▶



◇「さん太のワークシート」は自由にダウンロードして、学校や家庭での学習に活用してください。